無政府主義論集
（「黒色青年」各号からの抜萃）

国立国会図書館

特501
833

0035044000

0035044-000

特501－833

無政府主義論集

「黒色青年」編輯所

昭和5．11

AGC

無政府主義論集

内務省
昭和 5.12.1 禁止
警秘 第1875號
1/6

黑色青年聯盟

25

函
號
永久保存

凡例

△ 本論集は、曩に、つたへしが如く、おもに聯盟機關紙「黑色青年」の發行以來各號の拔萃、收錄である。

同誌は、號を重ねること、既に二十餘號に及んでいたが、この間、政府者階級の苛酷なる檢閲制度のもとに、發禁を免かるゝこと、わずかに二三回である。

本書は、この缺を補はんが爲、集成したものであるが、原文の移植は、再び發禁を免かれまいので、汎く讀まれんことを希望し、適宜、削除し少々手ごゝろを加へた。

△ 配列は必ずしも號を追つてゐない。內容は、增補、加筆し、せいせんしたつもりである。また、あらたに書き添へた稿もある。

△ 勞働問題、社會問題を口にして居る、多くの徒がマルキシズムに阿諛、追隨してゐる今日は、無政府主義に無智は敢て怪しむに足らぬ。

無政府主義は、喧騷的ジャーナリズムの埒外にあつて支配階級を潰滅せしむるであらう、被支配階級解放のみちは、無支配、無强權を基底とした無政府主義以外他にあり得ぬのだ。

本論集は、無政府主義の理解であり、强張である處の小書である。

目次

△黑色旗と赤色旗……（一）
△黑色運動の意義……（三）
——無政府主義の眞髓——
△强權社會崩壞の秋……（八）
△政治の發達と混亂の發達……（一一）
△變革の前に脅ゆる舊社會……（一四）
代議政治—反動日本—ロシヤの苦悶—プロレタリアとは
△帝國主義の崩壞現象……（一九）
△市電爭議より見たる勞働運動……（二三）
△惡指導者の成せるロシヤ革命……（二六）
△ソビエットなる合言葉に騙さるゝな……（三〇）
△イデオロギーと
用語のトリック……（三三）
△自由聯合とデモクラシー……（三六）
△白由聯合の本質……（三七）
——自由聯合組織に就いて——
△無政府主義の兩面……（四一）
（無政府主義的世界觀の理解）
△勞農國家と工業農村……（四六）
△制定法と自然法……（四九）
—バクニンの思想—
△エンゲルスの權威論を駁す……（五一）
△無政府主義者の武力運動……（五八）
——ネストル・マフノの事——

黒色旗と赤色旗

旗色がよいとか、惡いとかいふそれは景氣がよいとか惡いとかいふ意味に用ひられる言葉だ。そんな意味での旗色ならどうでも可い、黒旗と赤旗との差異になると、其位のことでは濟まされない重大な意味があるから、それは深く心に銘じて置く必要がある。

社會的の思想を抱懷した、佛國の青年達が、從來の共和黨の單なる政治運動に滿足しないで、更に一歩を進めて社會革命を斷行しやうといふ希望で團結したのは一八三〇年頃であつた。その青年の社會黨が赤色旗を自分達の旗印として共和黨の三色旗と區別しやうとしたのが抑々赤旗が社會革命に用ひられた最初である。

然るに黒色旗は此の青年達（主としてブルジョアの子弟で學生が中心になつてゐた）の社會黨と時を同じうして、リョンの勞働者達に用ひられたものである。彼等が自分達の解放を計畫した時、無理解な同市の總督は、軍隊の威力を頼んで之を愚弄した。之を知つた勞働者達は非常に憤慨して、忽ち竹槍、蓆旗の一揆が勃發し、有名な、「勞働に生きよ、然らずんば戰に死せよ」の文字を黒色旗に現して押し寄せた。總督麾下の一部の軍隊迄勞働者側に同情して遂にリョン市から總督を逐ひ拂ひ市政は勞働者とそれに與した共和黨との掌中に歸した。黒色旗の下に自治制が成立したのである。

けれども、黒色旗が翻へされたのは之が最初ではなかつた。一七八九年、佛國の平民が革命を成就

して巴里を自分達の手中に歸せしめた時、佛國王家と秘かに通謀してゐた墺太利大軍はブルンスキック公に引率されて佛國境に迫つて來た。ストラスブウルに駐在せる佛の青年士官、ルウジエ・ド・リルは人心鼓吹の歌マルセイエーズを作り、巴里市民の憤激亦頂點に達し、婦人達迄が軍資の爲に指環頸飾を投げ出して、自由の國を救へよ、と絶叫し、寺院の鐘は鎔爐に入れられて大砲に造り變へられるといふ危急切迫の場面が開かれた革命の成否、自由の生死は唯此の瞬間に迫つて來た。其時、巴里市民が決死の意を示す爲に市役所の屋上高く掲げたのは即ち黒色旗であつた。

黒色は死の色である。決死の色である。宗教に於ても大死一番といふことがある通り、社會の改造にも此の大死一番が行はれぬ限り新生面は到來するものではない。佛國の近世サンジカリズムの哲學者と言はれるジョルジ・ソレルは從來、社會革命の旗印となつてゐるのは赤色旗であるが、赤色は本來獨裁的戒嚴令の旗印で、政治運動の旗印としては或ひはふさわしいかも知れないが、勞働階級解放の旗幟、自由の旗印としては甚だ危險性を持つてゐる、と言つてゐる。

大死一番して初めて更生の大飛躍が行はれる、吾等は黒色旗の下に吾等の生命と精力とを集中する社會的更生に大飛躍せん爲だ。死を怖るゝ者は斷じて黒色旗の下に參ずること勿れ。

黑色運動の意義

——無政府主義の眞髓——

ジリジリの虐殺

現代社會の下に於て、彼れには人間としての生活は許されてゐない。彼れは日々、夜々ジリジリと搾り殺されるか、又は飢え殺されてゐる。青春の血は空しく涸らされて子孫存續は夢にも見られない。若し、かりに彼れに子孫ありとすれば、それは彼れと同じ運命に置かれるのだ。

彼れは殺されたくない、彼れは亡びたくないのだ。けれども彼れにはそれを許されてゐない。彼れの前には暗い悲慘な道より外開けてゐないのだ。彼れは現代社會を信じたい、そして、その道德、宗教、法律、政治諸般の制度文物を信じたいのだ。けれども、彼れがそれ等を信ずるが故に與へらるゝものは果して何か。

ジリジリの虐殺だ、然らざればジリジリの餓死だ、そして滅亡だ。彼れの人間としての、否、生物としての二大欲望である自己保存と種族保存とは滅茶苦茶に蹂躙されてゐるのだ。

彼れは頭をあげてあたりを見た。其處には自分と同じ境遇と同じ運命に泣いてゐる夥多しき人々がゐる。人一倍も穩やかな彼れの血も、沸ぎらざるを得ない、彼れは眼を閉ぢて考へざるを得ぬ。何うせ殺されねばならぬ身だ。何うせ殺されるならば、自ら進んで一か八かやつて見よう。何に、出來ぬ

ことがあるものか。彼れは行手の光明を見た、彼れの心は希望で燃えた。

決然として彼れは起つた。オーと叫んだ、オーと應じたものがあつた。それは彼れと境遇を同じくし、運命を等しくする兄弟姉妹だ。かたく彼等は手を握り、此處に、決死の運動は起された、之れが黑色運動の黑色運動たる所以だ。

能力に應じて働く

人には能、不能があり、適不適がある。彼れの能くするところ吾れの能くせざることがあり、吾れの能くするところに、彼れの能くせざるところがある。又時と場合によりて、彼れに適し、吾れに適せざることもあるべし、吾れに適して彼れに適せざることもある。

それ故に、時にのぞみ、事に應じて彼れはその指導者たる地位に立つことがあり、吾れその指導者たる地位に立ち、彼れはその協働者たることもあらう。かくして協心戮力、吾人皆その能力に應じて最善を盡して遺憾なきが、此れ吾が黑色運動の特色だ。

かやうに、我が黑色運動は、人々皆その能力に應じて最善を盡すのだ。我々の運動が其の然る所以は、共働の目的が、吾れ自らの解放であり、吾れ自らの自己保存と種族保存の確保といふ、人間の人間たる所以、生物の生物たる所以の二大特質の奪還にあるからだ。

すでに、共同の敵をもち、共同の目的をもち、協心、戮力、人々皆その能力に應じて最善を盡す、其處には何すれぞ規約や、宣言や、綱領や、統制機關や、支配機關の必要があらう。自由合意の運動と

そ、其處に、眞の統制が行はれ、眞の調和がとれ、眞の組織が形造られるのだ。

新興階級の僞瞞

封建制度の末葉に於て、貴族の償ふても償ふても尙足らぬ苛斂誅求と、新たに頭をもたげたブルジョアジーとの二重の搾取のために塗炭の苦しみになやまされた民衆は、パンのための革命を絶叫せねばならなく餘儀なくされた。

この情勢に乘じて狡猾なる新興階級たるブルジョアジーは貴族を殪し、その權力を自分たちの掌中に收め、自分たちの搾取を確立せんと欲し革命を唱導した。彼等は自分たちが同じく平民であることから我々ブルジョアジーといはずして、吾々平民と稱して大衆を僞瞞し、指導し、大衆をして貴族を殪さしめ、その成果をまんまと横領した。そして封建治下に於けるよりも尙一層強固な、尙一層殘虐にして惡辣な搾取制度を樹立した。

その結果として人類社會の生活は根底から攪亂され、こゝに再びパンの革命を叫ばざるを得なくなつてきた。

ところが資本主義搾取制度の當然の産物である所謂新興勞働者階級に屬する狡猾なる徒輩は、かつてブルジョアジーが平民大衆をして封建貴族を殪さしめ、その成果を奪ひ、自分たちの支配と搾取とを樹立した古智にならひ、新興勞働者階級の勢力に據り、新興勞働者階級が尙ほ無産者であり、勞働者であるところから、その運動を以つて無産者解放、勞働者の解放運動なりと高唱して、一般大衆を

僞瞞し、一般大衆をしてブルジョアジーを殪さしめ、自分たちの支配と搾取とを樹立せんとする運動を起してゐる。彼等はそれを名づけて共産主義運動といつてゐる。

彼等はいふのだ。資本主義の搾取制度を根本から改造しなければ我々無産階級は救はれるものではない、と。然も彼等は直ちに大急ぎでそれは至難のことであるから、先づ勞働運動を援助せよ、政治運動に參加せよ。そして一歩々々吾々は解放される。と附け加へることを忘れない。

英國とロシア

英國は世界に於て、最も資本主義制度の爛熟した國家といはれてゐる。從つて、新興勞働者階級の數は夥しき數に上つてゐる。彼等は一度びは內閣を占領した、過般のストライキにはその數三百五十萬と稱した。

この夥しき大衆を擁してゐる英國の新興勞働者階級が眞に無産大衆の解放を欲し、其れを企圖するならば、これによりて解放さるべき總ての大衆は響の物に應ずるやうに翕然としてその運動に參加すべきは火を睹るよりも明かである。そして資本主義制度を根本から改造するが如きは朝めし前のお茶の子のやうである。

然るに、未だかつて彼等がかゝる企てさへもしたことを聞かないのは何故か。彼等が無産階級の解放を口にする所以は、無産大衆を瞞着するための口實であつて、其れによりて無産大衆を瞞着して、其の勢力を利用して資本家階級と協調し、若しくは其れを殪し、自分達の支配と搾取とを確立せんが

ためであつて、斷じて無產大衆の解放が其の目的でないからだ。

勞農ロシアは世界中で唯一の勞働者國家だと號してゐる。彼等は其の持てる權力と、擁してゐる大衆の力とを以てすれば、資本主義制度を根底より改造して大衆を解放するが如きは易々たるものであらねばならぬ。けれども彼等がこの容易であり、當然なさねばならぬ事業に手を染むることだにせないで、只管これが社會主義に至る道程、大衆の解放さるゝに至るべき道行きだと辯護にこれを力むる所以は何故だ。

云ふまでもなく、之れは彼等の目的が、彼等の階級の利益と擁護と確立とにあつて大衆の解放でないからだ。彼等は英國の、否、世界到る處の國の新興勞働者階級と同じやうに自分たち階級の支配と搾取を樹立することが其の目的であるからだ。

階級闘爭と相互扶助

彼等の師匠はいふ。一切社會の歷史は階級闘爭だ、と。彼等は金科玉條として其れを守つてゐる。ブルジョアジーが自分たちの階級のために有ゆる權謀術策をめぐらして、自分たちの支配と搾取とを鞏固にし、維持せんと努力するやうに、彼等は彼等の階級のために、其の支配と搾取とを樹立せんがために、若しくはブルジョアジーと協調して自分たちの地位を安固にし、位地を向上させんがためにあらゆる權謀術策を弄ぶのだ。

彼等は、彼等の階級の利害あることを知つて、民衆の利害は分らないのだ。彼等には階級闘爭あることを知つて、民衆の相互扶助のあることは解らないのだ。彼等は實に彼のブルジョアの徒が彼等階級のあることを知つて大衆あることを知らないのと少しも變りはないのだ。

まことに憐むべきは彼等ブルジョアの徒のみではない、其の後釜にすはり、自分たちの支配と搾取とを樹立せんとし、若しくはブルジョアジーと協調し、自分たちの生活の安定と地位の安固を圖らんために、民衆を僞瞞し籠絡せんとする彼等である。

强權社會崩壞の秋

資本主義經濟學の泰斗アダム・スミスでさへ、政府とは社會の最大浪費者なり、と定義してゐるこの最大浪費者は單に自分が浪費するばかりでない。それでは滿足が出來ないので、交はるがはる種々な機會を作つて、民間から不淨の金をマキ揚げる。それが餘り過ぎると、民衆の前に申譯と面目とが立たなくなるので時々「緊縮」だの「肅正」だのと言ひだす。それが此頃だん〳〵やかましくなつて來たのは、餘りに不正が暴威を振つて自分達の强權社會其ものを維持することが困難になつて來たことを自覺したからだ。

民政黨內閣の後には、松島事件が起り、東京瓦斯問題が起り、民政黨の前大官や有力者が豚箱に入れられた。今度は政友會だ。天岡何某といふ前大官は勳章を、春畵や阿片と同樣にでも心得たか、巨額の代償を取つて一手密賣を營業した。博徒の親分の樣な小川前鐵相は、あちらの繩張り、こちらの

縄張りに手をくばつて、五十餘萬圓のテラ錢を奪ひ取つて、ごうだい偉いもんだらうと威張つてゐた揚句、到頭これも豚箱に移住することになつた。勳三等を購ふに、七萬餘圓を投じた氣前ものは、その勳章こそ一度も胸にはさげては見ないが、もつと立派な赤い着物を錦衣の如く被せられやうといふ段取りだ。

歐洲大戰勃發の前年、露西亞の政府の歳計中に掲載されてあつた幾萬噸かの軍艦が姿も見えないといふ大問題が起つたことがある。よく〳〵調べて見ると、それは時の海軍大臣何某が鵜呑みにして了つたのだといふことが分つた。さすがに露西亞人は大きい、幾萬噸を鵜呑みにするのだ、と西歐諸國に大評判であつた。それからあの歐洲大戰が勃發して獨墺軍が西露の大平野に侵入して暴威をほしいまゝにした頃のこと、露軍中に不思議の感を懐くものが出て來た。それは露軍の後方に於ける行動や狀況や、策戰計畫が敵の獨墺軍に手に取る樣に分るといふ一事であつた。はて不思議と調べて見ると何ぞ測らん、若き女に溺れて國家も王室も何のそのと軍事費を横領し、敵に内應したものは實に陸軍大臣樣であつた。それを取り卷く貴族や顯官達がそれに參加したのは勿論であつた。民衆の憤激は頂點に達した。かくてあの歐亞兩洲に跨る大陸國の隅々から起つた革命の喊聲はペテログラードへと押寄せて來た。既に全身腐爛した强權露國は一たまりもなく崩潰したのである。

日本はどうだ。世界無比なる國體を持つと自稱する日本はどうだ。國粹の美、忠君愛國の總本家を以て自ら任ずる小川前鐵相の生活は抑も何事を暗示するか。忠君愛國とは國家强權を利用して詐欺師泥棒よりも卑しむべき所謂利權屋から、その不淨財をまき揚げることとなり、といふ定義を身を以て示

してくれた小川前鐵相の行動は何事を暗示するか。天岡の事件、小川の事件の勃發に遇ふて政友會は混亂を極め、田中前首相は遂に悶死？して了つた。平生如何にも呑氣な父さんを氣取つてゐた、田中もまだ些かの良心があつたか、それとも自分が持つてゐる祕密の恐怖に堪へずして日の國を辭し去つたのであるか、次に田中義一の友人たる山梨大將は何を考へてゐる。太公望を氣取つて毎日釣堀に孤影を投げ映してゐる彼を訪れやうとしてゐるものは恐らく周の文王に非ずして世界の人間から蛇蝎よりも嫌はれる警察官といふ類人獸であらう。

今日のブルジョア達は、いたちごつこの遊戯を血眼でやつてゐるのだ。あぶなかつた宮田前警視總監の後を繼いだ今の丸山總監の明日の運命を誰が占ひ得やう。かうした遊戯の手先になる下級官吏とこれに税金を拂つてやる國民こそ好い面の皮と申すべきではないか。だが、失望するには及ばない。どうせ長いこゝはない奴等の壽命だロシアは好い鑑ではないか。ロシアに革命を齎らしたのはレニンでも、トロツキイでも、共産黨でも、ボルシエキヴキでもない。實にあの軍艦を鵜呑にしたり、敵に内應したり、軍事費を横領したりする權力階級共れ自身の功績なのだ。大日本帝國が監獄内に移轉するのもやないかと思はせる今度の疑獄事件ほど吾々に光明と希望とを與へるものはない。

時代は案外に早く回轉する吾々の恐れるのは、唯だ吾々自身に準備のないことだけだ、急げ急げ！全國到る處に網を張れ吾々自身の鐵條網を張れ。それは保守的ブルヂョアと革命的强權主義者とを一しよに總埋葬する爲の準備に外ならない。

さあ葬式の用意をしろ、二十世紀に於ける世界的大葬儀は、五千年來世界の人類を惑はして來たと

ころの強權病亡者共を、一齊に埋葬しやうとする吾々アナルシストの責任なのだ。
永い永い人類の惡夢だつた。黑旗を押し樹てゝ此惡夢を追ひ拂ふのだ。奈落の底へ落すのだ。
黑旗よ進め！この喜ぶべき大葬儀の先頭に立つものは黑色旗でなくてはならない。

政治の發達と混亂の發達

政治が發達すれば社會から混亂が減少し、政治が無くなれば社會は一大混亂に陷ると人々は思つてゐる。然し世にこれ位愚なる間違はないのである。これは正反對である。
恰も往昔、地球が廻るのでなくて太陽が廻るのであると考へてゐたと同一である。太陽が廻るのでなく地球が廻るのであると言つた人で死刑にされたものがあつたごとく、今我々は政治が混亂の原因であるといつて刑に處せらるゝのである。
然し歷史は僞れない。過去四千年間の世界の歷史は明かにそれを立證してゐる。太古の無政府共產時代には飢ゆるものはなく、萬人が安樂に生活して、萬人が藝術家であつた。ニヤンデルタール人の遺跡、ハイデルベルグ人の彫刻を見れば、太古は萬人がロダンのごとき藝術家であつたことが知れる。ラオコーンの塑像は一天才や特美人物の作ではなく、古代ギリシヤ民衆の日常品であつたてはないか。彼等は飢えず、常に充實せる生命を生活したのであつた。

然し政治は發達して、酋長、長老の政治となつたが今日に比すれば上古には政治が幼稚であつただけそれだけ社會も暮し易かつた。上古の社會は村より飢ゆる人を出せば、その村は恥であり、一般の非難を受けたのである。飢ゆるものを出すこと、血を流すこと、旅人を親切にしないこと、の三ケ條は上古の社會の最大罪惡であつた。而かも上古は生產力乏しく、今日のごとく、豐富なる物資は無かつたのである。ハムラビ法を見ればこの點は明瞭である。
然るに、ユーフラテ、チグリス河の流域の肥沃地ナイル河口の肥沃なる三角洲には突如として大權力が發生した。ネブカドネザル大王の權力、パロの大支配は人類に始めて發達せる政治の出現を示したのである。而かも奴隷は發生し飢ゆるものは次第に增して來たではないか。これに反して物資は空前の大豐富を來たした。
封建政治に至つて政治は益々發達したが、生活難は愈々加つた。然し現代に比すれば生活は餘程樂であつたのである。
三權分立の立憲民主政治となつた今日は如何、必需品を生產する大衆は皆飢えてゐるではないか。民衆は生きてゐるのではない。餓死を延期してゐるのである。生命の動くまゝに生きてこそ生きてゐると言へるのであつて、餓死の延期は斷じて生きてゐることではない。生活必需品を生產する農夫や勞働者が飢え、他人に働かしめて、その價値を搾取する奴等が、裕かなる生活をなしてゐるこころに、社會の混亂は絕頂に達してゐる。これ以上の混亂はないのである。
然るにソヴヰエット政府は更に發達したる政治であると言ふが、若し然らば、ソヴヰエット政治の

下では更に一層大なる混亂が出現する筈である。勞働者の名によりて勞働者が壓迫せられ、無產階級の名によりて、無產階級が壓迫せらるゝに至つては、ブルジョアの民主政治よりも遙かに甚しき混亂が行はるゝのである。

以上の考察をもつて、既往の普選の結果を見よう。普選によつて、政治組織の中に無產階級が喰ひ入ることは、無產階級の名によりて無產階級を壓迫する第一歩なのである六名の無產當選議員は議會に質問をするために、十八名の贊成者を要する。然るに六名の無產議員では十二名の不足であるから十二名はブルジョア議員に求めねばならぬ。

見よ、議會に質問するだけのためにでも、ブルジョアと提携せねばならぬとせば、他は推して知るべしである。無產政黨は無產階級の名によりて無產階級より搾取し、壓迫する外に機能はないのである。恰も勞農ロシアが無產階級の名によりて、無產階級を搾取し、壓迫せると同一である。ブハリンやカリニンは小川平吉、政友會のドル箱、久原房之助旦那と手を握つて、極東ブルジョア國の贊成を得て、無產階級の名で無產階級を搾取し壓迫する大詐欺師である。

殊に面白きは農民は小作爭議には力を入れるが、政治には一向力を入れず、農村から一名も無產代議士が出てゐないことである。農民は政治には無頓着であつて、それが自然の理に應ふことである。田畑は政府の力で出來るのではなく耕作は政治と何んの關係もない。唯政治は作物を取り上げる外には用がないのであるから、農民は政治を嫌ひ、政治に無頓着である。だから、都會と異つて買收が利くのである。一回、それは農民が三日間汗を流さねば得られない命額だ。それをブルジョアの手から只

で奪ひ返へすのだから、彼等は政治に興味がなくとも、買收に興味がある。故に彼等は無買收の無產派に投票せず、一回、二回、乃至は五回の買收に應じて、ブルジョアに投票をした。皮肉ではないか。然し無產黨は他日無產階級の名によりて無產階級を殺すであらう。

政治の發達は混亂の發達である。

變革の前に脅ゆる舊社會

代議政體

一切の政治形態のうちて、代議政體、即ち議會制度こそは人類が考へおよんだ最後のそして最高の政治組織であるその代議政體さへ、まさに危機に瀕して、政治は例へそれが如何なる形式で行はれようとも、一部少數者が、大多數の意思の如何に關らず、これを支配、强迫するものであることを、明白に暴露し始めた、代議政體の破產は一切の政治形式の破產でなくてはならぬ。何故かなれば、代議制體は過去のあらゆる政治形態を網羅した現在においては考へ得べき最高の政治形態だからだ。そこには獨裁政治の匂ひをもつてゐる、君主專制の殘香もある。金權政治、貴族政治、宗教政治などのあらゆる要素を、今日の代議制度は包含してゐる。

代議政體は危機に當面した、一切の政治なるものゝ斷末魔が近着かうとしてゐる。代議政治は——一切の政治は自ら墓穴を掘りつゝある。今世紀の新しき社會運動は、强制から自由へ、支配から解放

へ、政治から自治に向つて動きつゝある。この方向の運動のみが偽りなき社會運動である。

無産政黨

現代の社會に於ける最も愚劣な魔術は無産政黨なるもの、政治闘爭だ。プロレタリアの解放を看板にして一部權力亡者どもが私心を滿足せしめやうとするに過ぎない。

彼等無産政黨運動屋どもは自ら權力を握つても支配と被支配の間係がある以上、斷じてプロレタリアは解放されるものでないことを、痛感してゐない。もしくは彼等の認識が餘りにも幼稚で、これを知らないのだと、極めて善意に解釋しても好い。中には知り拔いてゐる奴もあらう。そして圖太くも政權にありつかうと畫策してゐる奴もあらうが、知らずに「これこそプロレタリア解放の道だ！」と思ひ込んでゐる者もあらう。

我等はあらゆる機會に於て政治闘爭が斷じて無産階級解放の道でないことを知らせねばならぬ。

反動日本

世界の資本主義は今や漸く帝國主義、軍國主義としての正體を明瞭に曝露し始めた。クロポトキンの言葉に據れば「斷頭臺は休む間もなく、血は河の如く流れる。古い威令と華美はその極度に達して更にまた新しき極限に向はふとする。ホワイト・テラーは始まつた。白色反動は始まつた。」——白色反動は正に始まつたのである。日本もまた列國に遲れずに反動政策は極めて用意周到に網

を張つた。

我等は彼等の反動的施設を一々こゝに列擧する必要を感じない。その數は餘りに多くその術策は餘りに見え透いてゐる。

だが我等は何故に世界は反動の眞中にあるか、何故に日本は反動政策を施さねばならなくなつたかといふことを愼重に考へなければならぬ。

彼等は最早自己の崩落する運命をまざ〳〵と感知したからである。勃興して來る我等無産階級の偉力の前に判斷力を失ふて、應急對策を講ぜねばならなくなつた。これ即ち反動政策である。名譽ある立憲國の國法も法律もこの反動政策の前には、判斷力を失うた政策の前には顧慮する暇がない。彼等は自分等が案出したごまかしの機關たる法律を蹂躙して、徒らに新興勢力を暴壓しようと試みる。

この事件は拙くとも我等に二つの事實を敎へてゐる。その一つは法律そのものが單なる支配階級のからくりであること、今一つは彼等の壞滅は既に彼等自身が自覺してゐるように旦夕に迫つてゐることだ。

同志よ、我等は起たう。起つて反動日本の鐵鎖をずたずたに切らう。

ロシヤの苦悶

赤色反動のロシヤは各地に蜂起して居る農民革命を未然に防がうとする。その理由はかうだ。

都會の勞働者と農民との間には經濟的に相容れぬ二つの相異點をもつてゐる。第一、農民と都市プ

ロレタリアは生活標準が著るしく相異してゐる。第二に物價の取引標準が農民のためには甚だしく不利益である。

この二つの理由から、都市プロレタリアと農民との爭ひは殆んど不斷に續けられ、延いては農民革命を誘發する形勢さへ見え初め、その二三は新聞紙上に傳へられたものもある位だ。

この危險を救ふものは、レーニン以來お題目になつてゐる農村電化だ。だが電化をするには資金がない。そこで外資輸入といふ名案を思ひ浮べたわけだが、經濟的事情を異にするロシヤに諸外國が容易に資金を融通する道理がない、近頃日本にもこの問題でだいぶ色目を使ひ始めたらしいが日本にも貸すべき財源がちつともないに相異ない。

ロシヤにおける農村電化はロシヤ政府の一大暗礁だ。やがて猛烈な農民革命にでも見舞はれて、共産黨の獨裁政府が水泡のやうにかき消された上で、ボルセヴィキが何をしてゐたかゞ世界のプロレタリアの前で赤裸々に公表せらるゝであらう。

新資本主義ロシヤは今一度大暴風で一掃せられて、ほんとうにプロレタリアが解放せらるゝに到るであらう。

プロレタリアとは

プロレタリアとは被壓迫階級全員の稱呼である。

マルクスはプロレタリアをもつて工場勞働者のみであるとした。そして一名これを近代プロレタリ

ア若しくは新興プロレタリアと呼んだ。彼が解放せんとしたるプロレタリアは實にこの工場プロレタリアにすぎない。

マルクス主義に於てはルンペンといふ言葉は特殊の內容をもつてゐる。ルンペンとは未組織勞働者、自由勞働者のことだ。從つてマルクスはルンペンをもつて解放戰上の妨害物としてこれを排斥してゐるのである。

今日にして思へば、マルクスが解放せんとしたプロレタリアは、彼等の解放に先立つて先づブルジョアに自然變質をしつゝある。ロシヤの例を見よ。英佛その他の諸國に於ける勞働者の生活狀態、生活態度を見よ。

我等が解放せんとするプロレタリアは斯の如き自然變質の危機を充分に孕んでゐる工場プロレタリアのみではない、先づ何よりも先きに集中組織なき自由勞働者である。そして一切のルンペンである今日に於ける眞のプロレタリア眞の被壓迫階級といひ得べきものはルンペンの層にすぎない。工場勞働者が被壓迫階級であり得るのは、彼れが革命戰に參加し、革命的認識を把握してゐる限りにおいて、被壓迫階級だ。單なる工場勞働者の如きは滔々としてブルジョアに變質しつゝある。それは如何なる意慾に於ても如何なる認識に於ても、被壓迫階級ではない。なるほど經濟的に搾取はされる。だが彼等も亦搾取してゐる。

搾取されつゝ、より多くを搾取しつゝ、工場勞働者は、自然的にブルジョアに變質する。

工場勞働は二重の意味に於て戰はねばならぬ。一つは自己變質をしないやうに、一つは强權への戰

ひだ。この戰ひをしてゐる工場勞働者のみが我等の味方である。

近頃プロレタリアといふ言葉が稍もすれば權力勞働者の避難所になる。これを警戒せねばならぬ。

帝國主義の崩壞現象

支配階級はその組織した制度が最早あらゆる方面から破綻を來しつゝある事實を、極めて無意識的に、若しくは多少意識的に認知し初めた。

發生當時に於ては、制度と組織は、支配階級のために最も鋭利な武器であつた。法律、各種の支配的官廳によつて發せられる命令、または一般的に彼等が釀成すべく努力したブルジョア道德の一切は資本主義國家を成長せしめるための重要な武器であつた。

然るに、制度が一度確立して、その搾取機能を十分に發揮するに至るや、制度自體は硬化して、搾取の役割を務めながらも、一方に於いては、支配階級そのものを掣肘するかの性質を帶ぶるやうになるものだ。

例へば官吏服務規律である、例へば裁判所構成法である。各種の繁文褥禮なる儀禮制である。これ等は支配階級的威嚴を備へるために、多く支配階級的利益を防護し、增進するために設けられたものであるに關らず、支配階級は反つてこの儀禮のために拘束、制禦を受けなければならぬ。國務大臣の任命式に於て、何某の侍立や、その手續きの繁簡が、直ちに法律、制度に違背するものだとか、或は

これを輕視したものであるなどゝいふ愚論が、所謂帝國議會の重要な論題なのである。

國家はこの法律制度が次第に馴致して來る矛盾を補ふために、更に他のより精細な法律制度を設ける。かくて一國の法律は益々煩瑣を加へて來て、遂には國家は機能を制度によつて阻まれ、內的な崩壞をなすに至らねばならぬ。

我等はかの棕梠樹が、纖維の內的肥大のために枯死する現象を見てゐる。また海岸の風にさらされて曲りくねつた松が、自ら支へるために枝を海中に突き込んで、反つてその死期を早める現象を知つてゐる。國家はこれと同じくそれ自らを支へようと努力する一切の施設のために、反つてその壞滅を早める。

しかも意識的に、若しくは無意識にこの努力の必要を感ずるこき國家は滅亡の期を豫知したものだ。バクーニンに依れば、社會變革の動機をなすものは人間の動物性と、思想と、反逆であるといふ。×の死滅を一刻も早からしめるものは、現存制度の一切を××し去らうとする人間の動物性とこれを合理的ならしめる思想と、徹底的なる××の意識に於いてのみなす反逆の意識だ。

綜合的、全面的破壞によつてのみ、社會は急據的に變革せられる。部分の破壞は改良的意義を持つに過ぎない。社會の機構は極めて精緻、複雜に出來てゐる。如何なる一部分の改革も、もしその徹底を望むならば、全體を破壞することによつてのみ達せられる。

世界の帝國主義諸國は自らの死滅を豫感しつゝある。それは徹底的な反逆が民衆の間から蜂起する事を豫知したからだ。國家は爰に於て、二つの方向からこれが對策を講じやうとする。その一つは民

衆を僞瞞してその戰鬪意識を痲痺せしめんとする改良的自由主義的政策だ。その表はれは國際聯盟である。軍備縮少の會議である。

今一つの政策は內的對策である。治安維持法その他一切の彈壓的惡法は、彼等の既成制度を擁護するために出來たものであるが、然し斯くの如き法律の必要を感ずるに至つたのは、即ち資本主義國家の矛盾と、その死滅の期を、自ら明らかに示したものに他ならない。

これ等の政策は要するに自らの墓穴を掘るものだ。だがこの舊制度の永續を狂的に冀望する支配階級の努力と、最早到底、この惡制度の持續が不可能であるといふ痛感とは遂ひに彼等をして白色恐怖政策を敢へてなさしむるに至るのだ。白色恐怖とは支配階級の死の恐怖である。斷末魔の苦悶である彼等はこの支配者の斷末魔の苦しみが、人間としてのあらゆる正義を無慘に蹂躙してゐる事實を數多經驗してゐる。サッコ、ヴアンゼッチの死刑の如き、支配階級の惡夢が作り出した人類の一大不祥事だ。この種の狂亂は今日では地上の至る所に演ぜられてゐる。恐らくは資本主義國家の壞滅の日まで、勇敢に續けらるべき狂亂であらう。

我等は地上に資本主義の防壘をなす二つの潮流が、動々もすれば民衆の叡智を曇らさうとしつゝ、滔々と流れてゐるのを觀取する。だがこの二つの政策は支配階級の內的肥大の一現象であるに過ぎない、國家はその對應策のために枯死する。枯死の原因をなす反逆が、絶間なく續けられることによつて崩壞の時は更らに早められる。

社會の變革は流產に終つてはならない。革命を强權主義者の術策によつて墮落させてはならぬ。×

×は××的傳統の一破片をも止めぬ程徹底的に、建設は人類平等の自由の上に礎石を置いてなさるべきだ。我等は眼前の資本主義崩壞現象を徹底的なる××にまで絶えず導く準備を整へねばならぬ。

市電爭議より見たる
勞働運動改革の必要

一

市電爭議は單なる一爭議に外ならないものであつたが、然し、それが勞働者（生產者）と一般市民（消費者）との對立を際立つて明かに示した點に於て、實に好い適例を與へたのである。

由來、勞働爭議は、マルクス流の考へでは、資本階級と、無產階級との鬪爭であると解釋されてゐた。この鬪爭、乃至は、階級鬪爭に就いては吾々が從來、隨分論駁して來たものであるが、今や、階級鬪爭が、決してブルとプロとの二大對立の間に行はれるばかりではなくて、消費者（一般無產者）と生產者（特殊無產者）との對立の間に行はれるものであると云ふ別個の意味が明かになつて來た。

市電從業員が罷業をやれば、覿面、市民が困まる。市民の足は奪はれて、多くの無產者はその日の出勤に差支を來たすことゝなる。市電從業員は市の當局（支配階級）を對手に戰ふばかりでなく、一般無產者たる市民を對手にして戰ふことゝなるのである。こゝにプロとブルとの對立以外に、特殊無產階級（市電從業員）と一般無產階級（市民）との對立關係が這入つて來た。これは獨り、交通勞働

者の爭議に現はれる現象ではなく、凡ての産業の部門に從事する凡ての勞働組合の爭議にも起り得る現象である。電氣、瓦斯、は勿論のこと、金屬工でも同樣である。若し全國の金屬工が一ヶ年間、一齊にストライキをやつたとして、鍋も釜も、釘も、火鉢も、金屬の日用品が一切市場に出なかつたとしたらば、鐵器類の價格は一躍十倍、二十倍となり、妻君が鍋を潰はして、金物屋へ買ひに行けば、鍋一箇、五圓と云ふ價になるであらう。こゝにも特殊無産者と一般無産者とが對立することゝなり、生産無産者は消費無産者を敵とすることゝなる。何の組合によらず、一般ストライキが行はれる時には、斯かる無産者同志の對立が起つて來るのである。これは普通の部分的なストライキでは判からないが、市電爭議のごとき、一般ストライキの性質を帶びたものに至つては、判然として判かることである。

二

そこで、爭議がブルジョアーとの鬪爭としての價値に就いては、今まで論じ盡したから、今は措くことゝし、爭議が無産者同志の對立關係となる點に注目しやう。

一つの勞働組合、即ち、一産業部門の勞働組合が、爭議する場合に、他の無産階級、即ち、消費者としての一般無産階級は、忽ち、その組合の無産者と利害の衝突を來たすのである。市電從業員が爭議をすれば、一般の勞働者、俸給生活者は足を奪はれて、市電從業員とは利害の衝突を來たすのである。然し、一般勞働者や俸給生活者が、市電從業員の爭議の味方をするとすれば、それは彼等一般無

産者が、自己の利益を棄てゝ、市電從業員のために犧牲となるの精神を持たねばならぬ。即ち、この場合、市電從業員は解放戰の前衛であつて、一般市民はその後衛であると考へ、前衛のために市民が苦痛を忍ばねばならぬと解釋せねばならなくなる。然るに、その内實は、市電從業員の懐を肥やすだけのことであつて、組合幹部の實名と漁利の外には何にもないではないか。勞働條件の維持改善の爭議は、單なる商的掛け引きであつて、一般市民の解放とは無關係ではないか。若し、これが前衛となつて一般無産階級の解放へと導くものならば、市電爭議が先鋒となつて、こゝに東京市に××が蜂起し、それが延いて××となるべきである。さらばこそ、前衛なる語の意味をなすのである。然し、如何なる勞働組合の爭議でも、斯かることを目論むのではなくて、單に勞働條件の改善だけではないか。若し、斯かることを目論むのであれば、『交通機關を市民の手に、無條件で讓渡すべし』との要求を提げて戰ふ筈である。『賞與一割減の反對』等と云ふやうな、商的要求であるべき筈がない。吾々は未だ曾て、世界の爭議で、解放の題目を提げて、戰つたのを聞かない。皆、勞働條件の改善ばかりでそれは商的駈け引きである。

三

斯かる商的駈引を、鬪爭だなどゝ、勿體をつけ、階級鬪爭だなどゝ、論理づけるのは、マルクスとサンヂカリストとの欺瞞策なのであつて、市民をして、一部の少數な勞働者の利益のために、苦痛に甘んぜしめるのである。それは新しい搾取である。特殊無産者が一般無産者に對する搾取である。專

制である。

勞働組合を通じて、一般無產階級を解放することを約束するのは、勞働價値說を肯定した上でなくては出來ないことである。マルキストの藝である。今や、勞働者と民衆との區別を撤廢すべき時だ。生產者としての無產階級の蜂起ではなく（即ち、勞働運動ではなく）消費者としての無產階級の蜂起を促すべき時だ。民衆運動へと進むべき時だ。

市電爭議が、勞働運動でなく、民衆解放運動となるためには、罷業をせずに、市民を無賃で乘車させることだ。これをせずして、解放だの、前衛だのと吐すのは、片腹痛いことである。

四

勞働組合運動は何時までも西洋直譯のものであることを廢め、民衆運動の一部とならねばならぬ。それは勞働條件の改善を計かるよりも、民衆に生產品を無償で分配する稽古をせねばならぬ。民衆運動、即ち、消費者運動（消費組合運動とは違ふそんな商的運動ではない。一切を無償で消費する運動）の一助として勞働運動が進む時、初めて、それは革命的の意義を帶びるのである。資本家對手に賃銀の駈引きをしてゐる間は、民衆は勞働組合とは無關係になるばかりである。

惡指導者の成せる

ロシア革命

ロシア革命の成就には實に多くの革命的要素と諸原因との綜合が與かつてゐる。であるからロシアに革命が生起したとき、諸國に亡命してゐたロシアの革命家達はどんなに喜んだか。で、新社會の曙光を見るべく故國を指して急いだか分らない。だが革命は變化し、轉回しつゝ遂にボルシエヴイキの政權樹立となつた。

彼等共產主義者はロシア革命に傲慢にも彼等の手によつてのみなされたと自稱してゐる。だが、見よ、彼等はそこになつて既に革命の諸原因を忘却したのである。

如何に我等の同志なるアナキストが革命を達成せしむるによつて力あつたかを閑却した。そしてアナキストを迫害し追放し虐殺さへした。

最も果決的なアナキストは彼等からすれば最も呪ふべきものとなつた。

何故だ、アナキストは常に最も無產階級的であり、從つて强權を擁して君臨する彼等ボルシエヴイキの恐るべき敵となつたからである。

ロシア革命に狂喜した眞正の革命家達は革命がボルシエヴイキの惡果を結んだのを見て、失望し憤慨した。

無產階級は果して喜びを堪へうべきであるか。喜ぶべきものは狡策をもつて政權をまんまと盜み得た。コムミニストとそれに加擔する諸國の第三インタナショナルの追隨者のみである。

眞正の無產階級の革命家は更に正しき革命を指し進まんとしてゐる。ロシヤ革命が如何に失敗してゐるかの詳細は既に吾人の同志の多くが指摘してゐる。吾人の同志計りではない。曾つてはロシヤ革命のための殊功者であつたトロツキーその人さへが絕叫してゐる。等しく共產黨員であるトロツキーの其の人の口から暴力政治なりと斷ぜしめその赤色恐怖の排斥を叫ばしめてゐることは一體何を物語つてゐることであるのか。彼等現ロシヤ政權掌握者は自己の立場を非難するものは直ちに反動的だと叫び倣すが、彼等こそ無產階級の純乎たる解放を裏切れる反動者ではないか彼等が政權を獲得してから今日まで無產階級のために果して何をなし來つてゐるのか。彼等の政權維持はたゞこれ極端に發達したチエツカの制度によつてなされる以外ではないのである。ロシヤの國情は一切の正しき報導の外聞にもれることを禁壓してゐることでこれをわれ〳〵は如實に知る由もない。けれどもよく行つてゐないことは充分に斷言し得る。

多くの材料を吾人は有する。泥棒、搔つ拂ひの横行は旅行者の苦しむ所であると旅行者は吾人に傳へる。

泥棒、搔つ拂ひは資本主本國の病弊ではあるが、共產主義國の病徵であるべきではない。然るに、それらの舊時代に比して劣らない事實は歸する所ボルシエヴィキ革命の失敗を實證するものであるに外ならない。

ロシヤ革命は人類が持つた最初の經濟革命であると彼等は稱呼する。だが彼等の經濟革命がどれ丈成功してゐるか彼等は新經濟政策を採用して今日に至つた。彼等はその政策をさらに一進すべき前の後退だと辯護した。しかしそれは資本主義的毒草を生やす濕地として場所を開いた以上今日まで無產階級のために一進させる何があつたか。政治的に云へば彼等は政權を辛じて支持してゐる。黨中黨を立つるトロツキイ一派はあるが兎にも角にも政權を維持してゐる。然し都市農村に於けるネツプマンに資本主義的再興をなさしめつゝある趨勢を防ぎ止めることの出來ないほど經濟的に云へば失敗してゐる。現在のロシヤは國家資本主義と云ふよりも、さらに一歩を進めて資本主義傾向の墮落を見せて居ると云へるのではないか。

彼等が重要視してゐた農村政策のテーゼがどれまて効を奏したかこれまた甚だ疑問とされて居る。勞農ロシヤの政府當事者は生產狀態が遂年良好に回復することを統計を以つて示すこともあるがそれらは都市並に農村に於ける彼等の政策の効果であるとは云へない。國內に於ける政治上並に經濟上のコムミユニストの失敗は尠くとも彼等の期圖した何一つ奏効的にはなし得ないでゐることは彼等コムミユニスト自身さへもが承認せざるを得ないであらう。

國際關係に於いてロシヤの當事者は共產主義的宣傳に急燥であつたがために失敗した。

英露關係に於いて佛露關係に就て對支外交に於いて悉く失敗してゐる。西歐に於いてなした外交的失敗を極東に於て取戻さんとして却つて失敗した。今日世界に漲ぎる白色恐怖の形勢はロシヤの隱謀によつて企てられた赤色恐怖と併行的に進み來つたのである。

ロシヤ一國をしかも歐露の部分だけさへでも共産主義的に處理し得ず共産主義的世界革命に向つて徒に効を急いだことが、彼等をして失敗せしめた原因である。

ロシヤのコムミニユストが現實は所詮無産階級を裏切つて政權を握り單に支配的地位を得ただけに止まるのだ、換言すれば眞正なる革命の惡指導者であるに過ぎない彼等の革命も無産階級は何が故に祝しなければならないのか全く疑問である況んやわれ等眞正にプロレタリアの味方として眞正なるプロレタリア革命の計企者に取つては、惡指導者に彈劾の拋彈を投げる以上に何があるか。さらに彼等は我等の同志を、ロシヤ革命に最も力を盡したアナキストをしかも彼等コムミユストは事の最初に於いて充分アナキストの功績をたゝへながら後に至つて壓迫し追遂し虐殺したのではないか、我等は權力把握のために如何なる卑劣事でもなし得る卑怯にして狡猾なるマキアベリズムの徒なるコムミユニストとは斷じて相容れない兩極に立つものである。

彼等よ。彼等は民衆を欺瞞して盜みえた支配力の爲めに盃を擧げやうが、我等は彼等の吊鐘をついてやるより外はない。全世界の無産階級は最早コムミユニストの欺瞞を知り盡した。

コムミユニスト！無産階級の裏切者！世界の無産階級が眞に目ざめて革命はアナキストでなければ成就するものでないと思ふ日が來りつゝある。我等はその日を思ふてわれらの運動を力强く思ふ。

然るに日本の無産階級の中には反動的コムミユニストの尻馬に乘つて踊る者がある。

レーニンを神の如く崇拜しレーニンの文書を經典の如く盲讀する多くの者が。

だが崇拜の心理は既に資本主義的觀念である。レーニンのミイラを有難がらせて民衆に拜廟せしめ

ることは無産階級に君臨して支配を掌の上に持たんとする新支配階級の考へ方であつて、それは支配を標幟して革命せんとする眞箇のプロレタリアのものではない。

ソビエットなる合言葉に騙さるな

ロシヤ革命が失敗に終つたのは、それが「ソヴヰエット」主義を標榜したからであつた。ソヴエット主義は勞働者農民が直接に社會を管理することを主張するものであつて、一見解放の一大原理であるかの如く見えるのである。然し、詳細にその内容を檢討すれば、それは勞働價値を判定しようとする思想をもつて終始したものである。遊惰なブルジョアーの前には勞働は一切の價値の根源であることを主張したくなるのは無理もないことではあるが、しかしそれは新しい强權へと導く一大迷誤を含むのである。勞働を一切の價値の基本とするときには共産觀念の基礎が壞れてしまふ。何故なれば、勞働價値說は、純個人主義觀念からでなければ成立しないからである。一口に勞働といふがそれは一體何を指していふのであるか。肉體の力をさへ注いでさへゐれば、それが勞働なのであるか。若し、そうであれば角力をとるのも、柔道をやるのも勞働になつてしまふ。肉體の力を注ぐだけが勞働ではない。それは生産に從事する勞力のことである。然るに生産は社會、即ち共同體を離れては成立する

ものではないが故に、勞働はこの共同體によつて價値づけられねばならない。ゴビの沙漠の眞中で四五人の勞力を汪いて見てもそれは何等の生產をもたらさない。

勞力は社會といふ共同體に於てのみ、價値を生じ、生產となつて現はれるのである。然るに勞働を以て一切の價値の基本となし、共同體を勞働の上に臨ましめないときには、勞働は勢ひ個人主義的となる。勞働は一人々々の勞働者の勞働時間によつて計量せられるものとなるのである。マルクスは生產に要する社會的勞働といつたが、然し生產に要する社會勞働なるものは、計量の出來るものではない。如何なる生產にも古今一切の人間の勞働が相重り合つてゐるのであつて、それは計量の出來るものではない。然るにマルクスはこれを勞働時間で計量しようとしたが、これは社會的、共同のものを個人的なもので計量するので、社會性の名の下に個人主義の原理を表はしたものである。若し勞働を一切の價値の本源とするならば、それは一人々々の勞働を勞働時間で計量する外はないから、私有財產制が伴つて來るのである。マルクスの時代の人々はこの思想から離れることが出來なかつたアダム・スミスは無論のこと、プルードンも、否、バクーニンさへもが、この勞働價値說から脫却し得なかつたのである。これに一大痛擊を加へて經濟價値の不可計量を叫んだものは一人クロポトキンあるのみであつた。ソヴヰエット主義はこの勞働價値說から離れては成立しない主義であるから「ソヴヰエット」を語るものは早晚マルクスへ行かねば滿足が出來なくなる。

ロシアのアナキストが革命時にあざむかれたのはこの「ソヴヰエット」なる言葉であつた。バークマンの如きは自由ソヴヰエットといふ言葉を用ひて、尙ソヴヰエット主義をアナルキズムに轢入しよ

うとしてゐる。彼はその著「ボルシエヴヰーキ秘語」中に極力レーニンの人物を賞讃してゐる位である。

アナルキズムは斷じてソヴヰエット主義ではない。クロポトキンの偶然に用ひた言葉を引用してクロポトキンもソヴヰエット主義者であると主張するならば、彼がキリストを賞讃した言葉を引用してクロポトキンはクリスチヤンであると主張せねばならなくなるであらう。我々はクロポトキンの一言一句を、文字通りに服膺するものではない。我々は彼の思想中、プルードンやバクーニンと異つてゐる點だけを採るものである。彼の分業否定、消費基本、地方分產制こそはアナルキズムの本義である。

イデオロギーと用語のトリック

敢て偏狹なる態度をとるのでもなく、又、潔癖を振りかざすのでもない。人間心理の微妙なる缺陷より生ずる一大危險に對して警告するに外ならない。それは人間が屢々イデオロギーと用語との魔術にかゝるからである。

第一に我々はボルのイデオロギーなる唯物的、又は唯物論、或は唯物史觀、史的唯物論、等々の觀念と用語とに反對をするものである。

我々が唯物的、又は唯物論等の觀念に反對するとき、彼等は我々を指して「唯心的」「唯心論者」

といふのであるが、彼等はこの點に於ては全然無批判、無檢討である。何故なれば、我々は唯物論を捨つると共に唯心論をも捨てるのである。唯物論は唯心論と名辭及び認識方法を異にするが、結局は同一物である。斯かる哲學から解放運動の理論も方法も出づべきものではない。唯物論は形而學的のものであつても、辯證法的のものであつても均しく決定論となるのであつて「自由」には到達し得ないものである。强權論者のトーマス・ホッブスは、英國唯物論の大立物であり、且つ資本主義的社會觀の優勝者であつた。ペーレイも同樣である。資本主義もボルシエビズムもともに唯物論より來たる決定論に基ける强權主義となるのである。愚論と蛙式認識の外は何も持ち合せぬ連中は、唯物論的でさへあれば、無產者のイデオロギーであると考へ唯心論は資本主義とアナルキズムの哲學であると考へてゐるが、これは馬を鹿と見る目でなければ考へられぬことである。見よ、アダム・スミス、ペーレイ、トーマス・ホッブス等一人として唯物主義者でなかつたものがあるか。而して彼等は資本主義の擁護者ではないか。

然し唯心論も唯物論と同じく强權主義に陷つてしまふ。唯心論では「理念」「觀念」の中に個人を融解して、結極個人の自由を否定し、强權の必要を認むるのである。ヘーゲルが國家論者であり、一切の宗教が國家神權論であるのでも知れる。唯心論も唯物論も均しく「自由」の基調に動くアナルキズムとは無關係である。

然し、アナルキズムは文藝や、宗教や、教育やその他の精神運動によらず、直接に經濟組織に○○を加ふることをもつてその方式となすのであるから、此意味から言へばアナルキズムも唯物論的であ

るといへるかも知れぬ。然しこれは唯物的であるといふよりも現實的であるとか經濟的であるとかいふべきで、唯物的であるといふのは妥當でない。唯物的であるといふところには不知、不識の間に辯證法的唯物論の形式が浸入して、忽ちにしてその魔術にかゝるのである。

アナルキズムは斯かる囈言に等しき哲學を捨てねばならぬ。哲學は形而上的唯物論でも、辯證法的唯物論でも、唯心論でも、批判哲學でも、生命哲學でも、畢竟個人の自由を完全に認めず、遂には强權主義に陷るのである。

アナルキズムは斯かる哲學より出發せず、現實に生れる欲求、「自由」より出立するのである。

アナルキストと稱する某等は「クロポトキンやバクーニンがさうであつたやうに革命的な唯物論者として……」と言つて居るが、クロポトキンが科學を重んじたことが唯物論者たるの證據となるか。クロポトキンの如何なる章句が唯物論であることを明示してゐるか。クロポトキンは科學を採り歸納法をとり現實的であつて空想的でなかつた。然しそれが唯物論であつたか。科學と唯物論とは大變に異つてゐる。英國の物理學者で電子說の開祖であるオリヴアー・ロッヂは偉大なる科學者であつたが唯物論の反對者であつた。フランスのボアンカレイ（死んだ大統領の甥）も著名なる科學者であるが、同じく唯物論の反對者である。科學に貢獻せる學者の多くは唯物論者ではない。科學と唯物論とは全然別物である。クロポトキンの科學的であることを唯物論的であると公言することは既にボル的イデオロギーとその用語の魔術にかゝつてゐることを明示してゐる。

又、バクーニンも同樣で彼は辯證法を採らず、事物の進展を必然的論理過程（正、反、合）によりて

見ず、自由意志が出立點とすることによりて事物が進展すると觀てゐる。（神と國家を熟讀せよ）と
れは、フイヒテ（大）の哲學の影響とも見らるゝ。フイヒテが唯物論でないことはいふまでもない。
バクーニンも矢張りクロポトキンごとくの科學的であり、且つフイヒテの「タート」の哲學が這入つ
てゐる。然し決して唯物論者ではなかつた。

アナルキズムは「自由」と「自由意志の欲求」を基礎として唯物、唯心、何等の哲學によらず、「自
由」と「意志」のイデオロギーで進むのである。

第二に反對すべきは、「必然過程」と言ふことである。彼等のイデオロギーでは、一切は人間の自由
意志を離れて必然的に進展することの理由により、資本主義の中に含まれたる要素によりて社會の變革
を漸次に企圖するのである。これは明かに唯物史觀に基づける方式であつて、自由意志、生活意志の
複合發展を無視したる決定論的社會觀に由來してゐるのである。資本主義を徹底的に否定し得ない妥
協的改造案に外ならない。斯かる觀方は、人類の歴史はその必然過程として必ず一度資本主義を通過
するものと考ふのである。資本主義をもつて社會病性と觀ることが出來ず、歴史的に一度これを肯定
し、その中に內含せる要素を延長して新社會に入らんとするものであつて、舊社會の病毒を新社會に
持ち越す最も愚なる方式であるのである。資本主義を頭から否定してかゝる勇氣のない連中の愚論で
ある。我々は斯かるイデォロギーをとらない。我々は社會に必然過程を認めず、不合理なる病性を認む
るのである。

その他、彼等は之より演繹せる多くのイデオロギーとその用語とを振りかざしてゐる。階級闘爭は

その一つである。階級闘爭と革命の準備とが異ることは今は省略するも、要はマルクスの階級闘爭以
外に階級闘爭なる語の意味はなく、社會の一小部分にのみ行はるゝ闘爭であつて社會全般には行はれ
ないものである。從つてその勝利は社會の一小部分の勝利で社會全體の勝利にはならない。社會全體
として××の準備に加へらるべきものであつて、その方策こそアナキストの企圖しつゝあるもので
ある。

自由聯合とデモクラシイ

デモクラシイは、二つの相異つたる主張が對立したる場合、言論のみによつて互に討論し、討論の
終結を待つて多數決に訴へて處理するのである。然し斯かるデモクラシイの方式の背面には、一切の
個性を無視する數學的原理とそれを利用したる法理論とが潜んでゐる。數學の最大公約數と法理學の
公平論とは同一のものである。

自由聯合組織の集團は斯かる資本主義的公平とは全然別物である。自由聯合組織に於ては、利害と
傾向と思想との相一致したる個人が自由合意によつて集團を組織し、各個人の利害と傾向と思想とを
自由なる發意によつて表現し得るのであつて、その場合に賛意のある人は自由に協力し、賛意のない
人は自由に傍觀し得る。但し、問題は自由に傍觀し得ない場合、即ち、その集團內に最初結成當時、合
意したる利害と傾向と思想とに反する主張や行動を採る人が出た場合である。

斯かる人々の出たる場合には、合意結成の根本趣旨によつて、當然排斥せらるべきである。それは會議にかけて言論による討論では、無益に終つて了ふ。何故なれば、言論は何んとでも理窟がつき、理窟によつて各個人の利害と傾向と思想とが定まるのではない、利害と傾向と思想とは生活態度によつて定まるのである、生活態度が異れば利害と傾向と思想とが異つて來る故に利害と傾向と思想とを異にした人が集團内に發生した場合は會議で解決することは出來ない。

自由聯合の組織では會議は大して重大なる意義のあるものではない。利害と傾向と思想はデモクラ流の會議で結着も解決もつくものではないのである。然らば自由聯合の組織に於て會議は如何なる役目を果たすものであるか。

自由聯合の組織では會議は協力の取引と、報告、發表、以外にはない、自由合意によつて僅に協力しようとする人々の協力の自由參與を取引する外には會議は何等重要なる役目をもたないのである。そこが自由聯合がデモクラシイと異ふ第一點である。

自由聯合主義の本質

——自由聯合組合組織に就いて——

先づ何よりも先きに、現在に於ける自由聯合主義はブルジョア階級への對抗形態として存在するものである。

自由聯合主義は、ボルセヰキ、半强權主義、僞アナーキズムその他雜多な社會思想の野合、媒介の手段たるものでなくて、實に、强權主義、中央集權主義その他ブルジョア、ボルセヴヰキ的社會意識の一切に對抗、抗爭して、勞働者による勞働者自身の解放プロレタリア階級自身の努力によつて、プロレタリア階級を解放せんとする積極的努力の集注である。

もし一つの組合が、自ら自由聯合主義を標榜する以上、その組合を組織する各組會員は、少くとも自由聯合主義を奉ずるものであることを必要とする。自由聯合主義は、組合の自由なる聯合に基礎をおいて、現在の社會を根底的に改革し、新社會を建設しようとする社會意識であり、社會理想である。自由聯合とは、社會意識の異なるものの自由なる聯合（その實は野合）ではなくて、新社會の建設を後見者なしに、指導者なしに勞働者自身がその日常生活によつて占取し得た經驗による自由發意の組織、從つて自由人の聯合であるといふことを意味するものだ。

組合はその發生時においては、單なる經濟人（職業人）の結合である。しかるにこの職業人は、ある一定の段階に到達すると、自ら醒めて、ここに意識人にまで昂上するものである。單なる經濟人たる組合員は、自己を解放するために戰略と社會理想を把握することが出來る。ここに於てはもはや經濟人でなくて、意識人になつてゐるのだ。

現在——帝國主義の經濟組織下において、プロレタリヤ階級は從つて勞働者は、自己を解放せしめることの可能な戰法と理想を把握するところの意識人である。自由聯合主義は、少くとも、この意識人によつて準據奉信せられてゐるところの階級戰術である。

ここにはボルセヴィキを、ブルジョア的意識を抱含することを許さない戰鬪力がなければならぬ。

自由聯合主義をもつて、經濟人の利益擁護の理論と見る、敎ふべからざる僞瞞家を、我等は、獨佛の勞働組合に於て屢々見受けた。この種の僞瞞家——改良主義的サンヂカリストである。

現在に於ては、組合は發生の過程から、戰鬪の方法の過程に進んでゐる。この時にあたつて、尙ほ組合發生當時の目標であつた職業人の利益擁護のみを呼號するがごときは、ロベート●オーウエンをして一九三〇年に生れさせたのと同じ位甚だしい矛盾だ。

過去の自由聯合組合組織の綱領規約は、かのアミアン綱領に依據したものであるといふ。吾人がアミアン綱領に對して述ぶべき第一の不滿は、さきに上げた職業人と意識人との因果關係を明確にしてゐない點に有する。その當時の生產關係、もしくは勞働者の自覺の程度から言へば、或はアミアン綱領は正しき意義をもつてゐるとも言へよう。

しかし時は刻々に流れる。生產關係は刻々に變化する。經濟狀態はここ數ヶ年の間に著るしい變轉を來した。階級戰術の進步に到つては尙ほ甚だしいと言はなければならない。今日の革命戰略においてアミアン綱領は果して何の意義を有するものぞ！これに絕大の意義を附與するものは革命に緣の遠いサンヂカリストか、若しくはこれを飯の種にしてゐる老ぼれた歷史家以外の者ではない！

アミアン綱領の最大の弱點は經濟と思念との相關關係を沒却してゐるところに存する。勞働者は經濟人である以上に或る理想をもつてゐるもの、從つて意識人であるといふことを別箇に考へてゐる。そこで彼等には、經濟的には無產者であるべき巡査が、何故に支配階級の一角をなしてゐるかといふこと

に考へ及ばない。考へ及んだものでも極めて未熟な概念しか持つてゐない。

現在においては、經濟人であるといふことは、階級的歸屬を示す唯一の標準ではあり得ない。意識人——かれが如何なる意識人であるかといふことが、最後の標準だ！かくて勞働者から貴族が出ようとも何不思議ではない。巡査が支配階級の一角であらうとも更に不思議ではない。

アミアン綱領は、この今日の最も重大なる問題に就いて何等の意味をも持つてゐない古籠のなか、歷史の頁のなかに埋めておけばそれで充分の代物になつてゐる。

その具體的缺陷は、對政治といふ問題について明に表はれてゐる。自由聯合組織はアミアン綱領は、全體としては政治運動はしないがしかし政治運動は個人の自由に委せるといふ態度をとつてゐる。この態度は換言すれば組合員は全部ボルセヴィキであつても、またはボルセヴィキになつても構はないが、會全體はアナキストの行動をとると宣言するほどお芽出たいものなんだ。部分に於ては何であつても構はないが全體としては方向をもつてゐると言ふのだ。世にこれほどおかしな態度——內規があるだらうか。

アミアン綱領、また自由聯合組織には、實に、內部的にかくの如く重大な破綻を含んでゐた。

アミアン綱領はそれ自體が間違つてゐる。アミアン綱領の弱點は、それに適當の結果となつて表れてゐたのだ。況んや、この骨董品によつて勞働組合の戰術を立てるなどといふことは、今日最早意味をなくしてゐると言はなければならぬ。

自由聯合主義は、反政治主義である。反幹部主義である。反强權主義である。

勞働者の眞の解放は、この闘意によつてのみ純化される。勞働者の解放はこれ以外にはないのだ！

無政府主義の兩面

（無政府主義的世界觀の理解）

アナルキズムに種々る形態があるこは言へ、それは尠くも二つの主張に於て一致してゐるそれは個人の自由と權力の否定と言ふ點である個人の自由と權力の否定こを除いては、アナルキズムはあり得ない。

吾々は今、此の個人の自由と權力の否定とに於て一致して居りながらも、その內容に於て樣々に違つたアナルキズムとなつて現れたるものを、大別して「主我的アナアキズム」「社會的アナアキズム」に分けることが出來ると思ふ。

前者はスチルネルの思想がそれであり、後者はクロポトキン、バクーニン、ブルードン等の思想がそれである。

スチルネルは自分をのみ土臺として、自分の慾求の通り生きて行くと言ふのがその大體の主張であつて、彼は別に社會こ言ふ者を少しも考慮に入れないのである。而して自分が已に一つの完全な自由人であると言ふのだ。

けれども僕等が如何に自由人であると、一人頑張つて見た處で、その自由人の慾求を充すべき社會

がないのみならず、現社會の樣にその自由人たる個人のあらゆる慾求を抹殺して行く樣な社會では駄目だから、何こかしてこの社會をして、完全にあらゆる個人の慾求を聞き入れる樣なものであらしめたいと言ふ——言ひ換へれば個人の完全なる自由の爲めには、先づ社會から造り正さなくてはならぬ

この主張がクロポトキン、バクーニン、ブルードン等の支持する所であつて、それはクロポトキンに於て最も完全であり、バクーニン及びブルードン等は不完全ではありながら、各々の特色は持つてゐる。我等は特にクロポトキンのアナルキズムを指して、無政府共產主義と呼ぶ。

世間の人々は、よくアナルキズムを分けて、個人主義的アナルキズムと（或ひはこれを哲學的アナルキズムこも云ふ）してスチルネルを指し、共產的アナルキズムこしてクロポトキン、バクーニン、ブルードン等を指すけれども、この分け方は些か當を失したかの樣に思はれる何故なら、スチルネルを

して個人主義とは言ひ得ないからだ。

個人主義こは凡ての個人の價値を尊重することであつて自己こ言ふ個人と共に他人をも均しく尊重することであらねばならぬ。この故にスチルネルは寧ろ、主我的アナルキストと呼ばるべきだ。

それからクロポトキン、バクーニン、ブルードン等を共產的アナルキストの名の下に一括るすのにも、クロポトキンは明らかにそれであるに違ひないけれども、バクーニンやブルードンは少し違ふ。

そこで今は、この三人共に無政府共產主義の下に包括する事を避けて、たゞその三人の共通點即ち個人の自由は、正しい社會からのみ得るものであると言ふことだけをこつて、これを社會的アナルキズムと名づけることにする。

所で我々は今考へて見る、人間とは何者であるかを、して見る時に、人間とは何と言つても、自分自身が現在生きてゐると言ふ事は、どうしても見逃す事の出來ない事實であるのに氣付くであらう。然りこれは確かに重大事だ。

こゝに山あり、河あり、草あり、花あつて、ありとあらゆる物質の存在は事實だ。併しそれと同樣に或ひはそれより以上、吾々が生きてゐる事も事實だ。

然るに吾々が生きると言ふ事は、たゞボンヤリと生きる事ではない。それはより眞實により眞劍に生きんとする努力である。「その生きる事及び生きやうとする努力は、食ふことゝ戀する事との慾求を土臺としたものであらねばならない。即ち食ふて自己保存と、戀して種族を保存する種族保存との慾求であらねばならぬ」。

だが僕等は幼少の頃より、或ひは學校の先生から、或ひは親達から、それに又世間の人々から、神の爲め人類の爲め、そして又國家のために、犧牲になる事が眞に人間のとるべき道であると敎へられ又強ひられて來た。だが併しこの神の爲め人類のため××のために犧牲になれとの事程馬鹿げた事はない。これ等の凡ては皆僞善であるのだ！

吾々は神のため人類のため國の爲めに犧牲になるより先きに、飢えたる胃袋を、性的衝動を如何にすべきか？　それをおいて何處に神が存在し、何處に××が存在すと言ふのか。

僕等は何よりも先に、食慾と性慾と、言ひ換へれば、自己保存の本能と種族保存の本能とに向つて眞に僕等を生かすべき道の何處にあるかを相談せねばならぬ。

食ふ事——即ち胃袋の問題については、今此處に詳しく說かないとしても、現社會の切實なる問題であり、又今や萬人の精力が皆此處に集中されてゐるから、皆が何の不審をいだかないであらう。

けれども此處に一つの問題——即ち性慾の問題については、人々皆その內心に於て食慾の問題と同樣な、或はそれより以上の切實な感じを持ちながらも、過去の因襲の爲めに、言ふだけの事を言はずにゐる。

先づ手近に言ふて見ると、人間は春情發動期になれば、誰から敎はらなくとも、自然に異性に對する性的慾求を感じる樣になるではないか。男性にせよ、女性にせよ、肉體上に一大變化を來たすのである。口には出さずとも、又君子の樣な態度はとりながらも道行く乙女に眼が行く。何と言ふ隱す事の出來ない、又抑へることの出來ない自然であらう。此の自然の本能を否定し得る者は果して誰だ！若しありとせば、そは僞善者か不具者であらねばならぬ。

一歩を進めて、人間以外の生物を見る。植物の花は美しい。併しそれは無意味に美しいのではない雄蕊と雌蕊とグルリと廻る花辨が美しいのだ。孔雀の羽が美しい。併し夫だつて無意味に美しいのでない生殖腺から分泌されるホルモンに依つて美しくなるのだ。試みに孔雀の生殖線を取り除いて見給へ。孔雀の美は亡んでしまふ。此の類はあらゆる動物に通有の事實だ。此等を見よ。如何に生殖作用が——戀が人間にとつて重要な位置を占むるかを。それが分れば、こゝに胃袋問題の重大さを說くに當つて性の問題を持ち出すのが決して冗談でもフザケ氣分でもない事が諒解出來るであらう。

兎に角我々には、慾求を離れて人生はない。若し慾求が人生の凡てゞあるとすれば、そはバンと戀

との慾求である事を知らねばならない。

此の人生觀的アナルキズムは、アナルキストがアナルキズム運動を續けて行く所に是非必要なものである。アナルキストが此の人生觀的アナルキズムを持たない時には、多く運動の途中に於て、幻滅の悲哀を感ずる樣になるのだ。

よく同志や團體に愛想をつかして、運動を止めたり、或ひは他に方向轉換をする人があるが、それは眞に無政府主義的なる世界觀を持たないからだ。

併し、この人生觀的アナルキズムは、たゞそれのみで一つのアナルキズムにはなり得ない。それはたゞ個人の自由の爲めには、社會から造り直さねばならぬと云ふ、社會的アナアキズムの運動をせんが爲めに必要なだけである。

社會的アナルキズムは、個人の價値を尊重するが故に、先づその個人の價値を尊重しその自由を容るゝだけの組織だつた社會を造らうとする。それはごうも致し方のない必然の勢であらねばならぬ。何故ならば人間は決してスチルネルの考へ通りに、社會的組織を離れて居らるゝものではなく、實に社會を組織してのみ個人の自由が確保されるからである。

それは決して社會主義者の考へる通り、社會を第一として個人を第二にしろとの主張ではない。それとは反對に個人の自由を基礎とし得る社會を要求し、その個人の自由を妨げる時に×××し、その個人の自由を容るゝ時に、それを認めると云ふ事である。

人間が孤立的には決して生き得ない事實――それは人間が社會的動物であるからである。即ち人間

はその人間としての今日となるまでには、幾千幾萬年間を相依り、相助けて來たが故に、相互扶助の本能が發達して來たのである。此の相互扶助の本能は啻に人間ばかりではない。凡ての生物を通じての事實であるのだ。

勞農國家と工業農村

アナルキズムは何故空想であるか、これ程實際的な、又實現し易いものではないか。十一、二、三世紀に渉つて歐洲に發生した共產村や自由市（墮落以前の）は此の理想が斷片的に實現されたるものではないか。何を論據として、この理想を空想だと考へ、一つの過渡期を通らなければ、此理想へ近づけないものとするのであるか。

既に資本主義の根本要素たる分業制度は次第に崩れ出して「何處でも何でも出來る生產樣式」が現れ出た。分業によつて生產力が上昇すると考へられたのは、極めて一部の生產部門だけに限つての考案であつて、眞の生產力は農場を中心とする地方的工業が多樣式に進まなければ上昇しない事が知られて來た。國際經濟の方面から云つても、一國家が一部門の生產を分擔して居る時よりも、一國內に多樣式の生產が行はるゝようになつてから、その國の生產力は著るしい進步が現はれて居る。即ち「或國では或物しか出來ない」國際分業の時よりも「何國でも何でも出來る」多樣式分產制度になつてから、富は著しい增加を來したのである。生產方式は國際的にに既は地方分產制度に入りつゝあるので

ある。

此れが更に一歩を進めて「何處でも何でも出來る生産の樣式」になれば、生産力は幾百倍するか知れないのだ。生産の方面から考へても新しい制度は既に胎まれて産れんばかりになつて居るのに、何を苦んで理想實現し難しとして、一つの過渡期を設定しなければならないのであるか、斯かる過渡期は資本主義の延長であつて、中央集權的國家、分産に依る生産方式の如き資本主義の根本原理によりて進まうとするから、此れは「盗人を廢めようとて盗人になる」と同じ矛盾に陥るのである。さもなくば「徐々盗人を廢めよう」とする可笑しい皮肉になつてしまう。盗人はキッパリ廢めるがよい。過渡期と稱するごまかしは民衆を欺く卑怯者の考ふる事である。

而して一度過渡期に這入つたが最後、理想制度は却つて實現出來なくなる。

或る男が、寒い冬、急に熱い風呂に這入つては害があると云つて、微温の風呂を沸かして這入つた奴がある。微温だから出ると寒いので出る譯にゆかず、然らばと云つてその湯に這入つて居る間は更に熱い風呂の要求も起らず微温湯から首を出した儘、出る氣にもなれず、その湯の中で卒倒してしまつた。

過渡期はこんなものだ。中央集權的國家制度で分業による生産方式を應用すれば生産は自治能力を失つて行きづまるときまつて居る、多樣式分産制度へ行かずして民衆を裕かに養はんとする事は非常なる空理空想である。

見よ、ロシアによい例があるではないか。革命の日からロシアは諸外國より經濟的封鎖を受けた。

多樣式分産制度をこらなかつたために經濟的自治力のないロシアは資本主義國の封鎖に遇つて忽ち窮してしまつた。そこで人も知る如く資本主義へ逆戻りして諸外國に頭を下げて資本主義國の勝手な要求に應じた、漸くの事で外國貿易を開始し、破綻に瀕したるロシアの經濟力を救はんとしたのである

若しレニンがクロポトキンの意見を用ひ、多樣式分産制度へと進んだならば、一年と四ヶ月でロシアは自給自足が出來たのだ。

そうすれば、外國と手を握ぎる必要はなく四年後にはロシア民は必要に應じて供給をする樣になつたのである。此れは決して夢ではない。

全體、革命は民衆自身の事であつて、民衆の事が解つて居なくては問題にならないのである。而して民衆の事は民衆自身に解決せしめるのが一番上策であるのだ。民衆とは決して人間が雜居して居る狀態を云ふのでなく、多數と云ふ事とは絶對に違ふ。民衆は利害を同じうする隣人を持つのがその特徴であつて、多くのグループを作らねばやまぬのである。

民衆の事は民衆のグループに解決せしむれば易く且最善に解決がつく。それを中央集權的に行政をやれば利害の關係のないものに利害關係にある民衆の問題をとり扱はしむる事となるから眞の解放は出來ず、妥協、即ち中庸と稱する不滿足を與へらるゝだけである。産業の方面から云つても中央集權制度は地理と云ふ一大現實を忘れた抽象的制度であるから多樣式生産方法が行はれず、分業制度が行はれて物質の不平均と生産力の低下を來す。

マルクス系統の學者は科學的と云ふ事を重んずるが彼等は地理學と生物學とを科學の中から抽き去

つてゐる。故に多樣式分產制度が解らないので、資本家と同じく分業の信者である。

制定法と自然法

＝バクニンの思想＝

バクーニンは法を二種に分けた一つを自然法と名づけ他を制定法と名づけた。

自然法とは自然の發生による原則であつて、高いものが下に落下するとか、血液は定律的に循環するとかいふやうなことで、制定法は國家社會が勝手に造り上げたる法で、法律、政治のごときは即ちそれである。バクーニンは自然法を高調すると共に、この制定法を破壞することに專心した。彼のアナルキズムはこゝにその眞義があるのである。

彼の言ふ自然法は二種に大別する。第一は獨立法、第二は集產法である。

獨立法とは人間個人の意志は獨立せるものであつて、自立何物によりても決定されない個人の意志それ自體の外にはない。個人の意志は絕對に他人によりて犯さざるべからざるものであつて、獨立に存在されてゐるものである。

この獨立せる個人の意志は利害と趣味と傾向とに從つて自由に意志の合致したる人々と聯合を結ぶこゝに始めて個人の自由意志を基礎としたる聯合體が成立する。この聯合體はそれ自體に獨立せるものであつて、他に犯さるべからざるものである。この聯合體が、その利害と趣味と傾向に應じて聯盟

を結ぶ。この聯盟はそれ自體獨立せるもので他に犯さるべからざるものである。

斯くて自由聯合の組織が成立し、これは人體に組織があるごとく、自發然に生ずべき社會の組織である。

この組織の下にあるものは個人の自由意志の獨立を保持しつゝ他人と完全に協力し得て、若し一つの聯合體と自己の意志とが合致しなければ、他の聯合體に赴くことが出來る、種々樣々なる聯合體の中で最も自己の意志と合致したる聯合體において社會生活を營み得ることゝなるのである。こゝに個人と社會との完全なる調和が成立する。

集產法は、生產と言ふことは、孤立しては生產せぬことであつて、社會生活と共に始まれる生產は必ずその機關を共有すべきものである。土地、建物、機械、原料、勞働は絕對に私有すべきものでなく、共有にすべきものであるとの主張である、これは獨立法と同樣自然なるものである。

獨立法と集產法、この二つが自然法である。

この自然法を破壞する不自然法が即ち制定法であつて、人間が勝手に理窟をつけて拵へ上げたる法制である。これは虛僞であり、略奪であり、惡である。

以上、バクーニンの主張は今日も尙變らざる眞理でありアナルキズムの軸とすべき眞理である。

今や普選だの無產政黨だのと騷ぎ廻つて、この不自然なる制定法を振り廻して歩く狂人の多い間に吾人は自然法確立の準備へと急がねばならぬ。

エンゲルスの權威論を駁す

フリードリヒ・エンゲルスに權威の原理に就いてといふ論稿がある。その議論はアナルキズムの觀點からは許し難い。由來、マルクスやエンゲルスはアナキストに對して歪曲の論理を故意にするところがある。材料の用ひ方にも彼等に都合よき部分だけを選び取つて論理を構成することが多い。一例を擧げるならエンゲルスの書いた「バクーニン主義者の活動」がそれである。この本のなかでエンゲルスは千八百七十三年の二月に起つた西班牙の動亂に際してアナキストの執つた行動を非難してゐる。しかしその非難の基礎となつてゐる材料が如何に故意に世つ偏頗に使はれてあつたかは、われ〳〵の同志マックス・ネットラウが精確な反證を擧げたことによつて明白にされた。我等は今そのことに就て論議しようとするものではない。たゞいふ、そんな風にともすれば故意に歪曲して議論を立てたがるエンゲルスはその權威の原理に就いて遂に許し難い誤謬を敢てした。その誤謬を指摘するのが本稿の目的なのである。

マルクス主義者は權力肯定の上に立つ。ブルジョアヂーの獨裁にたいしてプロレタリアートの獨裁は當然である。少くとも止むを得ないとする。如何なる意味に於ても權力の肯定を潔しとしないアナキストはその點に於て反對である。

權力を排除し、プロレタリヤ獨裁を否定しつゝ變革の事業を遂行せんとするのがアナキストの態度

である。そこでアナキスト革命はコムミュニズム革命とその方法を全然異にする。

ブルジョアヂーの獨裁に對してプロレタリヤの獨裁を肯定するコムミュニストは權力を肯定する。ブルジョアヂーの反動を徹底的にプロレタリヤの獨裁によつて壓下し、しかして後階級なき自由の社會にまで解放されるのであると彼等は考へる。しかし、われ等の見るところでは、彼等の方法によつてしては階級なき自由社會は遂に來ないであらうことを思ふものである。何故なら彼等はブルジョアヂーの殘存勢力に對して臨むところの獨裁は、彼等の獨裁制を中心とする政治圈内にも及ぼすものであるである、からプロレタリヤ獨裁を中心とする權力の爭奪が伴ふ。プロレタリヤの權力なるものは常に爭奪の對象となるのである。

權力に代へる權力をブルジョアヂーの代りに置き換へられたプロレタリヤの權力はまたプロレタリヤ内部に於ける權力爭奪を終始し、プロレタリヤAの權力の代りにプロレタリヤB派が之れに置き換へられる。それはなはれだ繩の如くに交替する。そして權力から解放されることは永久に出來ない。

階級なき自由社會を打出す道は、そこにはないのである。

しかもエンゲルスの權威の原理はそれを通じて自由社會が到來しないことを明徵したものといふの外はないのである。即ちエンゲルスの權威說こそ權力の肯定と把握とを理由づけるものに外ならないわれらは少しくエンゲルスの所說を檢討してみよう。

エンゲルスに從へば權威とは他人の意思をわれ〳〵の意思の下に服從させることであり、從つて權威は或るものゝ從屬を前提とすることなのである。從屬を對象とする思惟は支配の觀念を内含する

そこにわれらの思惟との根本的差異がある。といふのはわれらの所説では、從屬と支配との觀念は挿入され得ないからである。各人の意思と自由とが各人を自動の狀態に置き、自律するからである。

エンゲルスは、しかるに木綿紡績の場合、全部の勞働者は蒸汽の權威によつて決定された時間通りに勞働を開始したり、終熄しなければならない。蒸汽は個人の自主を許さないのだと考へる。しかし勞働者が機械の運轉によつて働くからといつて、その蒸汽が權威であらねばならないとする考へ方は愚である。右と同樣にエンゲルスは鐵道の例を擧げて次のやうにいふのである。鐵道では大勢の人間の協働が絶對的に必要であるが、その協働は一定された時間に於て行はれなければならないから、その場合の根本要件は一切の從屬的事項を決定する主宰的意思が必要となるのである。

大洋上の船についてさらに彼は、そこで個人の意思の下に統御される全員の絶對的服從があるといつて權威論の例とする。

或は「生産及び流通の物質的諸條件は必然的に大工業及び大農業の影響下に從屬せしられるのであるから、權威の領域も益々擴大する」といふ又「政治的國家がそれを所産した社會的關係が撤廢さるゝよりも、もつと以前に一擊の下に撤廢されんことを要求する、即ち、彼女は社會革命の最初の行爲は權威の撤廢たるべしと要求するが、革命とは權威手段によつてその意思を他の部分に强要するものである。パリ・コムミユンがブルジョアにたいする武裝せる人民の權威を利用しなかつたとしたら、それは一日以上勢力を保持しえなかつたであらうが……」と云つてエンゲルスは權威の原理を説明するのである。

しかしわれ〳〵かち見れば、以上の如き説明は全く彼等コムミユニスト好みの論理であつて、その論理のうちに權力肯定の意欲を看取しうるのである。例へばエンゲルスが引用した木綿紡績勞働に於いて勞働者が機械の決定する時間内に就業したところで、それを特に蒸氣の權威によつて決定されるものと思惟する必要はないのである。鐵道にせよ、汽船にせよ、協同が絶對に必要であるのはいふまでもない。各人がそれ〴〵の分擔に於いて働かねばならないからだ。しかし命令を下す機關長又は船長が權威であると思惟せねばならぬ理由は何處にもないのである。若しもそこに權威があるとすれば火夫も、水夫も、水先案内も、コックも、機關士も、船長も、彼等の悉くが同樣、同等、同量の權威であらねばならないのである。何故なら、彼等のどの部署乃至分擔が缺けても船の運轉に支障を生ずるからである。

吾等は悉くに同等量の價値を置くところに、われらアナキストの思想がある。これに反して一個の權威即ち支配と服從の對立を思索のうちに取り込まずに居られないところに、彼等マルクス主義者の思想があるのである。

繰説すればエンゲルスの見解をオーケストラのコンダクタアは權威となる譯であり、ロシア革命に於いては、レーニンが權威な譯である。しかし、われ〳〵の考へ方ではオーケストラのコンダクタアに交響樂結成の上の一つの分擔的役割に過ぎないので、それを特に服從を强要する權威であるべきではない。即ちオーケストラは各個の階調的協動が成立せるものであつても、指揮棒が服從を强要することで成立すると見るべきではないのである。その證據にはコンダクタアを廢するオーケストラか勞農

ロシアでさへ企試されやうとしたことさへ見ても分かる。

生産、流通の物質的諸條件が不可避的に益々大工業乃至大農業の下に從ふべきであるから、大工業乃至大農業は權威であると見るが如きは、産業の中央集權的形態を執る彼等の當然の思惟であるかも知れないが、分散主義の上に立つ産業形態をこゝろわれらの到底承認しがたき觀念である。それは兎に角にして、何事にも權威の觀念を核心としてでなければ物事を考へることの出來ない、彼等は、革命をさへ權威事項と見ずには居られないのである。

革命を權威的に見、革命の遂行に指導者を置き、その指導者に權威を置き、さちに、その指導的權威に偶像的價値を附與する。

かくの如き思辯は歸するところブルジョア觀念の變容的再現に外ならないのであつて、その觀念それ自體が純正なる無産階級意識を根本的に毒するものと云はねばならないのである。

マルクス並にエンゲルスの所說を實地にこの地上に實現したと稱するボルシエビストの徒はレーニンを權威とし、遂に神聖なる偶像とした。マックス・イーストマンは「神の破壞者死して自ら神となる」と云つてレーニンを皮肉つたのは蓋し當然である。彼等は舊き權威を打倒して新しい權威を樹立せんとしたのに過ぎないのだ。さうした考へ方は無産階級の純正なる意識は混入させてはならないものなのである、彼等は新しい權威を樹立するために、あらゆる手段を用ゐんとするネオ・マキアヴエリズムである。彼等は好んで「利用」といふことを考へる。「利用」とは？ 利用とは狡猾の別名である計りでなく、卑怯もの〻戰略であるのだ。その「利用」といふ賤しむべき文字をエンゲルスは使

つてゐるのをみるがいゝ。

「パリ・コムミユンがブルジョアにたいする武裝せる人民の權威を利用しなかつたとしたら」武裝せる人民を利用しなかつたとしたら……？。善良で、革命に燃え立つて蹶起した市民！ その純正無雜な正義的蹶起がエンゲルスの文字によれば、利用さるべき存在なのである。

何と云ふエンゲルスの言葉だ。しかしわれ〳〵は彼等の所謂革命戰略はその言葉のうちに明かに看取されるのである。彼等は善良なるプロレタリアの正直な憤怒を「利用」して革命の効蹟を簒奪するものである。

ロシヤ革命はどうであつたか？ 最も革命的であつたわれ〳〵のロシヤの同志は革命のためには誰よりも、何人よりも勇敢であつた筈だ。ケレンスキーが彼の社會民主々義的政府を樹立したとき「ケレンスキー政府を倒せ」と叫んで倒壞の最初のきつかけをつけたのはわれ〳〵の同志たちではなかつたか。

純正に且つ勇敢に戰つた、そしてそれは狡猾なる利用に終つた。

無産民衆とアナキストとは狡智を嫌ふ蹶起は自發的にする抑へ難い反逆の感情と共になされる。そこに毛頭微塵の利用觀念はない。革命行動それ自體を敢行するのだ。

あらゆる革命がいつ指導者の指導を待つて勃發したか。大暴風雨は氣象學者の豫報によつて起るものでない如く、革命は指導者の指導、時に卑怯にして狡智のみあるそしてたゞ單に他のものゝ革命行動を利用することのみを考へてゐる惡指導者の計算によつて生まれるものではないのである。

ロシヤ革命が一箇レーニンの指導位で遂げられるものではなく、一團のボルシエヴイストの宣傳丈で成し遂げられるものでは斷じてないのである。

それは、いつの、どの革命でも同樣に、無數の人と、物と、條件と狀態との革命的綜合がなし遂げたのに過ぎない。だから、そこに何の權威がある筈はないのだ。われらは思惟の重心をそこに置く。革命の原動力とそれのもつ敵への壓迫力は力（事實上の）ではあるが、斷じて權威ではない。であるが故に、ロシヤ革命の功蹟をレーニン、トロツキーその他に歸せしむるならば、それは偉大にしてダイナミックな無數のまた無名の革命的綜合努力を利用してその効績を奮ひ取つたに過ぎないもので、まさに革命にたいする冒瀆である。

權威を中心とする思想ほど人類の純正なる感情を汚すものはないのである。エンゲルスの引用した鐵道の場合だつて、汽船の場合だつて、乃至革命の場合だつて、等しくさうだ。それらは權威の原理を借りて來なくても、共働的意義に於いて十分に說明しえられるのではないか。

アナキストは、どこまでも反權威論の立場に立つて權威論に對蹠する。現在、特に人類進步の未來に亘つて抗爭すべき思想は權威論の立場と反權威論の立場のそれである。それを社會形態若くば產業形態に移せば中央集權的思惟と分散主義的思惟とのそれである。

われ〳〵はその後者に立つ。そして資本主義者と共產主義者とは同樣に前者に立つものである。

われ〳〵は反權威論の立場に立つて、一切の權威論者に對抗しつゝある。權威論者とは帝國主義者資本主義者、マルクス主義者、ボルシエヴイスト等である。ボルシエヴイストは資本主義の骨髓である權威觀を異つた衣裳、赤いいろの無產階級の衣で包んでゐるが、それだけ、資本主義に近く、それだけ罪惡的であるブルジョア、デクテータアシツプにたいするプロレタリア、デクテータアシツプ、ブルジョアの中央集權制にたいする共產主義的中央集權制の採用、ピイタア大帝の名を冠したピータアスブルグの代りに、レーニンの名をとつたレーニングラード、キリストの廟の代りにレーニン廟、それらは單なる置き換へに過ぎない。

われ〳〵はそれらの舊き、又は古るき尾を曳いた一切の權威論若くば權威論的思考にたいして反抗する。そして全く新しい眞にプロレタリア的な行程に出發せんとするものである。

一應エンゲルスの權威の原理にたいする抗論をあげてをく。だが、われ〳〵に必要なことは權威論への抗議ではなくして、われ〳〵はわれ〳〵の反權威論を近代科學の典據によつて積極的に開展してゆくことである。

無政府主義者の武力運動

——（ネストル・マフノの事）——

農民に取つて農民が誰よりも理解が出來る。わがネストル・マフノは農民である。しかも初等教育だけしかうけてゐない農民である。この國の農民の誰一人として初等教育だけはうけて居やう。それだとすれば最も多くの農民が最もマフノには親しみうる筈だ。

マフノは千九百六年に無政府主義運動に加はつてそして千九百八年密偵數名を殺した廉によつて死刑の宣告をうけた。しかしそのときのマフノはまだ未丁年であつたからそのため減刑されて無期懲役となつたのである。

マフノはそれから八年間下獄してゐたが、千九百十七年三月一日許されて出獄した。

牢を出たマフノは生れ故郷のエカテリノスラフスカヤ縣グリヤイトボノレ村に歸つてそこの農村や勞働者の間に這入つて勞働組合や勞農自治會を組織した無論無政府主義的のものである。

それから間もなく彼の武力運動に突入した譯である。と云ふのは彼は獨墺軍がウクラナを占領してゐるころ、パルチザン主隊を編成してこれと戰つた。戰つたが利あらずして、戰ひながらダガンローク、サアリツインの方面に退却しなければならなかつただが、翌年（千九百十八年）八月密かにウクライナに歸還し再度のパルチザン主隊を編成して、地主や獨墺軍と戰つたそのときは獨墺軍が例のブレスト・リトウスク條約に基てウクライナの全部を占領してゐたときだつたのである。

マフノはその後間もなくウクライナの南部に蜂起した全農民の聯合主隊となりボトリユーロフやデニキン軍と戰爭をした。就中、デニキン軍に對しては約百露里に亘つた戰線を張つて渡り合つたと云ふから愉快である。その上、彼はその年の十一月から翌年の六月迄デニキン軍の壓迫に抗爭した計りでなく。敵を驅逐した區域内に農民勞働者の自治主義に基いた社會的經濟的機關を設立すべく努力した。が、その企てこそはその地方の農民の心からなる希望と一致したのであつた。

その機關が無政府主義思想を受容してゐるのは云ふまでもない。そしてその機關がマフノの名を取つ

て「マフノフシナ」と呼ばれ、そのためにます〳〵大衆的革命運動が自ら組織されることになつたそうなると驚いたのはボルシエヴイキの連中であつた。そこでトロツキイは千八百二十四號の命令を發してマフノ並にその一派の無政府主義運動を壓迫することになつた。マフノはそこで赤衛軍と白軍からの板挟みに置かれだ譯である。そうした間に立ちしも戰ひ乍らデニキン軍の正面を通過して退却しなければならなかつた。デニキン軍がその軍隊をアルオルに向つて進みモスクワに迫つたのは實にマフノが退却したからであつた。だが、マフノは千九百十九年の秋（九月、十月）又もやウクライナに現はれて遂にデニキン軍を再び立つことの出來ぬ致命的の打擊を與へた。と云ふのはマフノはデニキン軍の砲兵根據地を占領し、その後方部隊を屠殺し、その前衛部隊の糧道を絶ち切つたからである。

アレキサンドリア附近のセントフ村で開催きれたパンチザン會議で、マフノ哥薩克指揮官グリゴリエフに對して銃殺の刑に處することにした理由はグリゴリエフがエリサベットグラード市に於て猶太人の虐殺を敢てしたからである。かくの如くマフノは常に無政府主義の正義に從つて行動した。加之ウクライナに於いてデニキン軍を拂り去つた主動者がわがネストル・マフノであつたにもかゝわらず勞農政府は彼を壓迫した。千九百二十年の一月の命令がそれだ。表面の理由はマフノが波蘭戰線に出征すべき命令を拒んだと云ふのであるけれども、その實はマフノをウクライナ地方から遠離させることが一つ、もう一つはマフノの如き軍事行動に依る無政府主義運動はソヴエート・ロシアの連中がどうしても捨てゝはをけない丈の脅威を感じたからに違ひない。

その癖ワランゲル軍が蹴起してウクライナの大半を占領したときには勞農政府はマフノに握手を乞はなければならなかつたではないか、それだのにウランゲル軍の始末がつくとマフノを追放したのである何故マフノを追放しなければならなかつたか。理由は明白である。外ではない、マフノが共產主義の獨裁を認めなかつたのと、無政府主義者の武力運動を恐れたからである。

昭和五年十一月十五日印刷
昭和五年十一月十八日發行（定價十五錢）

編輯發行人　前田淳一
東京市神田區小川町一
印刷所　黑色青年聯盟印刷部

發行所　「黑色青年」編輯所
東京市神田區小川町一（天下堂ビルヂング内）
振替東京六二四八一
電話神田（二六五四）七五二二

HM
H 251
SA 15042
3

ANARKIISTA VERKARO

kompilita de "Ligo de Nigraj Junuloj"

ĈEFA ENHAVO

- Nigra standardo kaj ruĝa.
- Disvastigo de politiko kaj pliiga konfuziĝo en la socivivado.
- Disfalanta imperialismo.
- Rusa revolucio efektivigita de malbona gvidanto
- Kio estas liberfederalismo ?
- Refuto kontraŭ aŭtoritata principo de Engeles.

k. c.

Tiu ĉi verkaro estas eldonita de Kokushoku Seinen Renmei (Ligo de Nigraj Junuloj) kiu estas tre forta grupo en Japanio. La grupo aperigas ĉiumonate sian gazeton "Kokushoku Seinen"(Nigra Junulo) -n, kaj ĝi estas jam aperigita 23 n-rojn, sed dume, la registaro, malpermesis vendi kaj distribui la gazetojn, escepte nur 2—3 n-roj.

En Japanio anarkiista movado estas subpremata de speciala registaro, kiu, nomas sian konstitucion, kiel kompletan tendaron, kian oni neniel trovas en aliaj landoj, sed spite, la mvado kuraĝeme daŭrigata de niaj dedi'emaj kamaradoj.

Kun firma manpremo ni esperas interligi kun kamaradoj ĉiulandaj

Vi[illegible] anarkiismo [illegible]

[illegible]nu anarkii[illegible] Japanio!

Decembro [illegible]

[illegible] KOKUSHOKU SEINEN RENMEI

[illegible]nejo : Kokusho[illegible]mei (Ligo de Nigraj Junuloj).
[illegible]treso : No. 1. To[illegible]a-Maĉi Kanda Tokio Japanio.
Prezo : 1 ekz. 10c. [illegible]ona